

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	台湾
滞在都市 (☆)	台北
留学先大学等名 (☆)	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科 (☆)	社会科学学院
留学先で主に使用した言語	英語、中国語
渡航先への入国日 (☆)	2016年9月2日
渡航先からの出国日 (☆)	2017年1月18日
渡航先国での滞在期間 (☆)	4か月半
同伴者の有無・続柄・年齢等	
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	General Chinese Language Course (I)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50分×2×週3回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3
履修科目名称	Chinese Enhancing Course (I)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50分×2×週2回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	1
履修科目名称	Microeconomics (I)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50分×3×週1回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3
履修科目名称	Macroeconomics (I)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50分×3×週1回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称	Special Topics in Chinas Economic Development and Reform
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50分×2×週1回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	2
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
履修科目名称	
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	
授業形態 (講義・セミナー)	
取得単位数	
留学生 (日本人) の割合	30%
成績評価の方法 (試験・課題の数や分量等)	出席、課題、中間試験、期末試験がバランス良く評価される。授業によってはプレゼンもある。
履修科目の制限等 (あれば)	
(英語圏以外の場合) 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	専門科目の授業は主に英語で行われるものを受講していた。

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

語学に関するサポート(特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等)	留学生向けにレベル別の中国語の授業がある。
授業内での留学生に対するサポート等	
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	日本の大学とほとんど変わらない。
図書館について	24時間空いている自習室がある。
保健センター等の有無	
クラブ・サークル等について	日本と同じような感じ。
留学生へのサポート	始めに1人現地の学生がついてくれて、分からないことなどを聞くことができた。
オリエンテーション等学校主催の行事について	
現地の学生との交流について	日本人と台湾人の交流を深めるサークルがある。
他の留学生との交流について	中国語の授業か、寮で仲良くなるが多かった。
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	
長期休暇中の過ごし方	
その他	

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	停留ビザ(180日以内)
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	大阪の大使館に直接行き申請 1~2週間
利用航空会社	キャセイパシフィック航空
入国の際の現地空港名	桃園空港
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	バスで約45分で台北駅 台北駅からMRT(地下鉄)で20分
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	

その他	
-----	--

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	<input checked="" type="radio"/> 無
奨学金名	
奨学金月額受給額（円）	約 22 万 5000 円
入国時に用意した金額	5 万円
クレジットカードについて（カード会社名・日常の利便性）	SMBC 信託銀行プレスティア
留学中に利用した銀行名	SMBC 信託銀行プレスティア
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	無し
デビットカードの使用について	無し
日本からの送金方法について	
1ヶ月の生活費（目安）	3~4 万円
その他	

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	学生寮（一人部屋）
家賃	約 25000 円
住居を探した方法・時期	大学からの紹介
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	
その他	

5. 2 食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	台湾では屋台や店が安いので自炊する人はほとんどいない。
1ヶ月の食費	約 30000 円
その他	

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	
インターネットについて（Wi-Fi 環境等）	大学、寮、地下鉄、レストランなどに Wi-Fi あり
コンピューターについて	
郵便について	

交通機関について	地下鉄、バス、公共自転車
治安について	良い
保険について	東京海上日動
医療機関・薬について	
気候と服装について	10月末くらいまで半袖
普段の買い物について	
娯楽・行事について	
日本語の使用について	日本人や一部の台湾人と
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	中国語の参考書
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	中国語
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	就職活動は終わらせてから、4年の後期に留学した。
留学中の就職活動について (海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターンシップ等)	

7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	中国語を2か月ほど
留学中の学習方法、工夫したこと等	できるだけ現地の台湾人と中国語で話すようにした。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか(主観的な実感や具体的なスコア等)	ほとんど話せない状態から、簡単な会話なら一通りできるようになった。(中国語)

8. その他

留学して得られたこと	語学力、いろんな国の友人
留学中に困ったこと	自身の英語力の低さ
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

留学を決めた理由

大学生活に変化が欲しいと感じ、留学を考えていたときに、指導教員であった福重先生に阪大経済学部が国立台湾大学の社会科学院と提携を結んだと聞いたことがきっかけ。

現地で履修した授業およびその感想

まずは中国語の授業について。留学生向けに中国語の授業があり、レベルも様々で、セメスターのはじめに筆記と口頭の試験があり、それによってクラス分けされる。授業の内容は、受け身ではなく積極的に話していくというものなので、毎回楽しく受講していた。先生にもよるが私のクラスは、パイナップルケーキや豆腐を作る体験教室に参加したり、グループでミニムービーを作るなどユニークなものが多かった。この授業で他の国の留学生とも仲良くなることができた。

次は専門の授業について。専門の授業は英語で行われるものを取っていた。私は経済の授業を3つ取っていたのだが、その中で一番印象に残っているのは中国経済に関する授業。院生向けの授業であることを初回の授業時に知ったりと、最初からかなり不安だった。いきなり意見を求められたり、慣れない英語でのディスカッションや、膨大な資料を読んでそれについてのレポートなど、正直何度も心が折れそうになった。それでもなんとか最後の二人一組のプレゼンを終えたときの達成感は大きかった。振り返ると、辛かったが一番成長できたと思える授業だった。

楽しかったこと

たくさん友人ができ、いろんなところへ出かけたり、いろんなイベントに参加したりと楽しかったことは無数にあるが、一番楽しいと感じられた瞬間は、台湾人の友人と中国語で会話していたとき。初めはほとんど話せなかったが、いろんな表現を勉強し、それを使って少しずつ話せるようになっていったときに、成長を感じることができ一番楽しかった。

留学を考えている後輩へのメッセージ

交換留学は決して大それたことではないと思うので、少しでも留学に興味をもっている人はぜひ挑戦してほしいと思う。英語が苦手な、中国語がほとんど話せなかった自分でもできたので。また、大学生活に慣れてきて、変化が欲しいと考えていたり、新しいことを始めたいと思ったりしているときに、留学によって環境を変えるのは一つの手だと思う。台湾は日本に近く、親日国であり、日本に似ているところも多いので、全く違う文化圏に飛

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

び込みたいと思っている人には少し物足りないかもしれないが、私自身は台湾に留学して良かったと思う。少なくとも留学後に台湾が大好きになることは間違いない。